特別講演

私の林業経営

秋田県指導林家　佐藤清太郎

ただいまご紹介いただきました佐藤でございます。

こういう場で話をすることがありませんので，大変緊張しておりますが，どうかよろしくお願い申し上げます。

昨日今日と皆さんの大変熱心な，現場での発表を聞かせていただきまして本当にありがとうございました。私も，３０年間林業と共に生きてきましたので少し話をしたいと思います。また皆さんからも，いろいろなご意見をよろしくお願い致します。

私の地域は，秋田市から本荘に向かう途中の下浜というところで，夏は海水浴で大変にぎわいます。国道７号線より４km東に入った小さな集落が私の森のある地点で，それより４kmが雄物川，秋田空港へとつながっており，高い山がなく，里山的丘に近い感じのところです。

最初に「２１世紀の夢」という私の考え方を申し上げたいと思います。次に「育成天然林」について申し上げ「秋田森の会　風のハーモニー」，「私の林業経営」の順で話したいと思います。

それでは，２１世紀の林業の考え方を申し上げてみたいと思います。

テーマは「森林と健康」を掲げ，林業を健康産業と位置づけ，今までの生産主体（木材生産）の林業から，自分も楽しむ林業（自分への小さなボランテァ）が大切であるとの考え方です。あなたは，なんの仕事をしているかと聞かれることがあります。私は専業林家と答えると「林業って大変な仕事で，採算的に合うんですか」こういう言葉がきます。次に，汚い，危険，きつい，やる人が少ないそうですねと続く。そんな時，誰が林業を悪い３ＫとしてＰＲをしたのか，林業の仕事を行ったことのない人が，いう訳がないと思います。そうすると林業者が自分の職場（仕事）を嘆いて墓穴を掘っているような気になります。同じようなことが林業施業用語にもあるように思います。

一般の人々は，木を植える，育てる，伐る，使う，それが林業だと思っています。しかし木を植えるにしても，造林，拡大造林，再造林，複層造林など。伐るにしても，除伐，間伐，択伐，皆伐，主伐など多くの施業名があります。一般の方々には

１回目，２回目の間引きと説明すると良くわかります。２１世紀の森林・林業は，林業者以外からも，わかる用語を使い，良き林業の理解者になっていただくことが大切であろうと思います。

山の仕事は，男性の職場であるような考え方で，今日まで続いてきているように思います。これからの林業の仕事は，男女差，年齢差などを超越した施業と，より安全な林業機械の研究開発が急務であります。女性の知恵と協力をどう生かせるかが課題となります。特に自然環境問題を抱える森林・林業は，行政の中でも重要課題になると思います。

林業のデータは，あくまでもデータであり，林業の基本は実践であります。今日あまりに多くのデータがあるため，データに流され，林業は赤字でダメな業種のように表示され過ぎています。その中にあって思うのは，林業施業体系の組み替えなどにより，多くの改善がなされることが分かってきました。また，生産基盤の整備（作業道）などを施すことによりコストが下がり，安全面でも大きな成果となり少しづつ変わろうとしています。

本来林業の仕事は，あまり難しいものではありません。誰でもが自由に参加できるものであったのが，高齢林，高備蓄林，高人工林率の林を多く持っていることが優秀な林家で，できるだけ伐らない資産家的考え方が民有林に多くなり，林のサイクルが長くなったことで，地場に働く者が少なく，その影響で林の手入れが悪くなり，せっかく植え育てた木が不良木となることが多く，木材の需要拡大を図っても，悪い木は売れないことを林業者は，はっきり知るべきであります。木を伐る，木を売る方向への働きかけが必要であると思います。

前にのべたように悪い木の使用方法は，林家自身の工夫で生かされる場合もあります。嘆くことはありません。最終的には「燃える・腐る」の長所を生かして，燃料や肥料とすることが出来ます。今までの常識をもう一度原点に戻り，２１世紀は，「森と共に生きる」そんな考え方で取り組んでいこうと思っています。

次に育成天然林施業について申し上げます。

森に蛇や蛙，蜂，小動物がいなくなったらどうしよう。そんなことを考えたことがありますか。今，森には，だんだん動植物が少なくなっているのです。その原因の一つは，広葉樹が少なく，人工林の針葉樹が多くなり同時に手入れの遅れた真っ暗な林分が増え，動植物が住めなくなったと専門家の先生が言っておりますように，人工的に植え育てた林は人工的に伐る。最後まで人の手が必要であることも知るべ

きでしょう。

そんなことで，針葉樹と広葉樹のバランスのとれた林が重要となります。そのためにも広葉樹の特性を知ることが大切であり，戦時中，木の実を食べ，早春には山菜採り，秋には茸採り，雑木を伐り，冬期は燃料など人間を含めた動物には，衣食住に係わる要素が広葉樹の森にはたくさんありました。

中でも，飲み水は最大の森からの恵みであると思います。広葉樹は多くの素晴らしい性質を持っています。しかし，現実には広葉樹の森林では，林業経営は難しく，それだけに育成は大変であります。目的木だけの広葉樹施業でなく，防風帯，他の木への養分還元，自然環境林，四季折々の彩りなど人間のやすらぎ・休養の場所としての広葉樹の大切さを視点として育てたいと思っております。（特に針・広混交林の中での育成が課題と思う。）

「秋田森の会　風のハーモニー」は，数年前，私が東京に行ったとき当地出身で，東京で病院の院長をしているお医者さんとお会いしました。その時「ふるさとの森や川・海が，これからの高齢化社会には大切になる，大事にしてくれ」と言われたことが動機となり，地元のお医者さんなどと様々と話し，相談，ご協力，御指導を受け，１９９１年９月発足したのです。３０haの森を解放，その森を「健康の森」と名前を付け会員制をとりながら，森林リハビリを中心に森林浴，動植物とのふれあいを楽しみながら，人間関係を深めることに努め楽しんでおるところです。

この森は，自然そのままにと考え他よりの植物は導入せず，動植物の生体系を大事にしております。トイレも簡単なもの，建物も木炭窯の小屋だけ，ゴミ箱もなく自分のゴミやその他のものは全部持ち帰ることなど，森を汚さない，森の恵みに感謝の心を持ってマナーを守ること，会則を守ることなど厳しく定めながらご協力いただいております。（現在の会員１９０名となりました。）

また，この森は，中高齢者を中心に遊歩道を多くつくり，森を歩きながら動植物を探す。あわせて，林業施業体験などを行うことが出来るようになっております。

昨年は８００人もの人々が遊びにきてくださいましたが，空き缶やゴミなどは全然森の中になく，森に多くの方々が入ったことが逆にきれいな森となり，道端の野の花も堀取りされることもなく，可憐な花が咲く健康な森となりました。

この森で一番良い勉強をしているのが私自身であるようです。それは，林業を営んで一番聞きたいのは，内輪以外の人達の声を直接森の中で，施業を見ていただき聞けることです。林業者にとって，大変，大事なことと思っております。（他人の

声を聞けなくなると林家は，孤立する。恐ろしいことであると思います。）

次に「私の林業経営」の概要について申し上げてみます。

経営面積１２３ha，針葉樹率７０%，広葉樹率３０%。一応目標とした施業は終了しました。作業道は，立派な道ではありませんが，ha当たり１００mになりました。林業機械も，リモコン付き集材機を利用しますと，安全で高齢者や女性の労働力も生かせますので助かっております。次に，施業と労働力ですが，私の年間実労働は１４０日位，その他ソフト面が１５０日で，その中でも１月と２月は実労働はなく，家で反省と新年度の計画づくりなどですが，この２ヶ月が一番大切な時間となります。３月になりますと計画した林に再度調査に行き，更に詳しく作業行程を深めます。４月より１２月までは実際に仕事を行いますが，計画通り進まないことが多く，そんなとき，何とか楽をして早く追いつこうと考えるとき，良いアイデアが生まれることが多いと自分なりに思っているのですが。家内の目には，省略つまり手抜き作業であると映るようです。

また，家内には，林業を知ってもらうため森に連れていくことにしています。

雇用労働力は１６０人位で，主に伐採搬出等専門の分野に短期間協力をお願いしております。特に注意していることは，専門の方をお願いする場合には，　あらかじめ下草刈や，切木印付け，土場，作業道など仕事の能率が上がり安全であるように段取りを全部やっておいて，作業に入っていただくようにしておりますので，高い賃金を支払っても問題はありません。また，林業施設によっては，国や県，市町村から補助金が出る有り難いことではありますが，これからの林業は，補助金に頼らず，低利の資金を借りるなど健全な林業経営に努める必要があると考えます。
（特に行政に要望したいのは，補助金よりも全額費用を持って公的林道網の早期整備を実現願いたいものです。）

１９９１年９月の１９号台風は，私にとって大きな痛手であると同時に，林業への考え方を根底から変えたように思うのです。その一つは，人工的に造林した針葉樹には寿命があります。人間が伐って使用しなくとも自然は力で倒し，また新しい芽を育てるのだということを教えてくれました。私の場合は８０年生以上のスギが全滅，折れ，倒れました。もしかすると天スギのようなスギに育って高価格で売ることが出来るのではないかと，少し期待をかけ複層林という施業に移行したときだけに被害が大きかったです。木は成熟しており，前年には高い値で買い主もあったのに私が売らなかった。今悔やむよりも，その時に与えられたチャンスを，受け入

れなかった経営の甘さを反省しているところです。

私は父と共に１４５，０００本のスギの植林を行ってきました。しかし，用材として使用されるものは３０％位で，一生懸命に育てた木が間引きされるのを残念に思い，どうせ間引きされるなら本数を最初から少なく植える方法と考えたのが，一辺が１m～１.２mの三角形の頂点にスギ苗を植える。１ha７００箇所２，１００本を植栽，最終的には３本のうち１本だけ残るようにして，二面無節材を目指すもので，下刈などすべてを巣中心の育成管理を行い，巣以外に生えている広葉樹を利用して，林全体の密度管理を行うものです。最終的には針葉樹と広葉樹の混交に導く施業林にしたいと思っております。

自分の考えた施業で木を植え，育て，伐る，活用する。木の素晴らしさを味わえる林業経営者になれるよう頑張りたいものです。

次にお願いを３点話したいと思います。

１「活力のある森づくりと自然環境との調和」

営林局や現場で働き退職した方々を，地域の人達と一緒に，国有林１％を解放していただき森づくり運動推進役（ボランテア）が出来ないものでしょうか。

楽しみながら汗を流すと共に国土を守る国有林。（期待致したい）

２「本物の自然イベント開催」

森でのイベントは，山菜刈やナベッコ，キャンプ，自然観察会など多く開催されますが，森の中でのマナーや，草木とのふれあい方など原点に戻った，ごく当たり前のイベントを大事にしたいと思うのですが。

特に苗木配布には，いただく人に住所・名前を書いていただき「どうなりましたか」とアフターするくらいの思いやりがあった方がよいのではないでしょうか。

３「高齢者と女性の参加知恵で，森林・林業はおもしろくなれる」

生産林として育てつくった森林が，２１世紀には自然環境や生態系の中で注目され，森林と健康など福祉・文化により多く活用される社会になりつつあると考えます。

繊細な女性の頭脳と子供を育てる母性愛，高齢者の欲望から解放された人生経験を，２１世紀の森づくりに生かすことが出来ないでしょうか。

終わりに当たりまして，私は昨年，全国林業経営推奨行事で大臣賞をいただくことが出来ました。これも多くの先生方のご指導の御陰と，心より感謝を致しており

ます。受賞で東京に行ったとき，多くの林野庁の先生方とお話する機会がありました。「私は若いとき秋田営林局におりました」「○○署にお世話になりました」という方が，秋田の林業を詳しく覚えており，驚きと共に自分の勉強不足を感じました。

また一方，秋田で行っている森林・林業を大変暖かく見て下さっておりました。これからの秋田県の林業活性化は，お互いに力を合わせ汗を流しながら，業界・行政のお力を借りて，全国に通用できる林業経営及び林業施業に頑張りたいと思います。

一方的な，しかもまとまりのない話しで申し訳ありませんでした。

長時間お聞き下さいましてありがとうございました。